
研究活動報告

第6回厚生政策セミナー

「地球人口100億の世紀：「南」と「北」のコントラスト」をテーマに、国立社会保障・人口問題研究所主催、毎日新聞社後援による第6回厚生政策セミナーが2002年1月29日（火）午後1～5時、国連大学3階国際会議場にて開催された。阿藤誠所長の司会のもと、以下のプログラムにしたがって進められた。

開会・セミナー趣旨説明 阿藤 誠（国立社会保障・人口問題研究所所長）

問題提起 佐藤龍三郎（国立社会保障・人口問題研究所情報調査分析部長）

基調講演(1) ペーシェンス・スティープンス（国連人口部人口開発戦略専門官）

「21世紀の世界人口の展望：「南」の国々の視点から」

(2) ダーク・ヴァンデカー（オランダ学際人口研究所元所長）

「21世紀の世界人口の展望：「北」の国々における“第二の人口転換”」

追加討論(1) 大淵 寛（中央大学経済学部教授）「人口政策の経済学的根拠」

(2) 目黒依子（上智大学文学部教授）「女性と人口・開発問題」

パネル討論（全員）

当日の講演、追加討論およびパネル討論の全記録は国立社会保障・人口問題研究所から『第6回厚生政策セミナー報告書』として発行（2002年3月29日）され、またスティープンス、ヴァンデカー両博士の論文は本誌本号（特集）に収録されているので参照されたい。（佐藤龍三郎記）

特別講演会（尹豪教授）

アジア経済研究所客員研究員として日本滞在中の尹豪（Yin Hao）吉林大学東北亜研究院人口研究所所長・教授が2月28日日本研究所で「中国の人口問題の最近の動向」と題する講演をおこなった。講演内容は中国の①20世紀後半の人口変動、②人口政策、③人口移動と広範にわたるもので、全般的な中国の人口問題に加えて、尹教授が目下研究主題としている人口移動（国内移動、国際移動）について最新の統計に基づく分析結果が披露された。「計画出産法」制定の動きなど今日的话题にも触れられ、興味深いものがあった。約20名の出席者があり質疑応答も盛り上がった。（佐藤龍三郎記）

特別講演会（デュモン教授）

2002年3月5日（火）午後2時～4時に当研究所で、ベルギーのルーバン・カトリック大学社会学科のウィルフリード・デュモン（Wilfried DUMON）名誉教授が「ヨーロッパの家族政策」（"Family Policy in Europe"）と題された特別講演を行った。同教授は家族社会学者として著名で、特に、家族政策の分野では古くから研究を続け、1980年代末にはEUの依頼により「家族政策研究ネットワーク（European Observatory on Family Policy）」を創設し、その後もベルギー代表を務めてきた。1990年にはネットワークのその後の活動の出発点となる報告書『EEC諸国における家族政策』